

## ．はじめに

### 1． 研究の目的及び範囲

昨年2001年は日本の提案に基づき、国連で採択された「ボランティア国際年」であった<sup>1</sup>。それに伴い、韓国でもボランティア国際年に関連した様々な取り組み・行事が行われた。例えば、ボランティア21は「ボランティア大行進」というイベントを企画し、多くの市民が参加した<sup>2</sup>。ボランティアは21世紀の市民社会を考えると欠かすことのできないキーワードのひとつであり、筆者がボランティア活動を主題として取り上げたのも、このような意識からである。

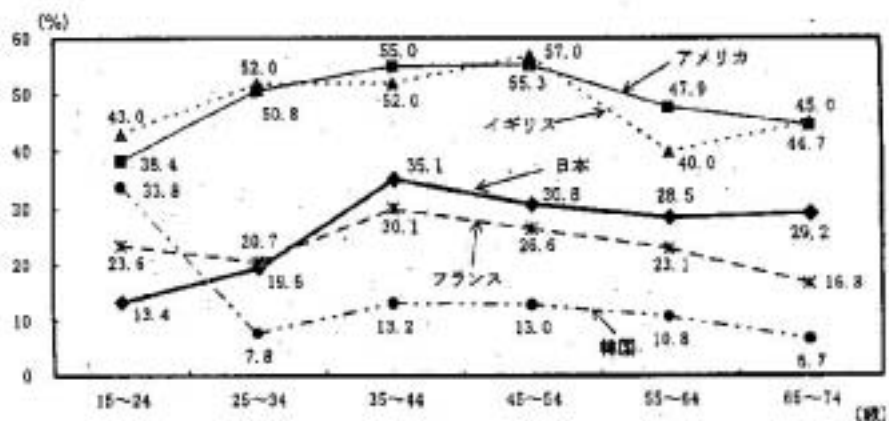
韓国では最近までボランティア活動に関する研究があまりなされてこなかった。ボランティアが研究対象となったのは1995年以降で、特に1990年より以前にはほとんど研究されていない。その上、ボランティアの定義が曖昧な研究も少なくない。研究内容に関しては活動を活性化させるには、どのような政策を行うべきかということが中心で、その際に問題として取り上げられていることは、ボランティアの派遣団体や受け入れ施設等のプログラムの未熟さやボランティア関連機関に関する問題である。このような現況から、筆者は韓国のボランティア活動について先行研究とは違った視点から研究をする必要性があると認識した。そして韓国におけるボランティア活動には、どのような特徴があるか、また韓国人はボランティア活動をどのように捉えているか、どんなイメージを持っているかという点を中心に研究しようと決心した。本稿は「韓国におけるボランティアとは何か」という問いに、中高生ボランティア・大学生ボランティアの観点から、筆者なりに答えようとして書かれたものである。

言葉の使い方について、一言断っておきたい。本稿で筆者は、「ボランティア」という言葉を行為・人・概念を表現するものとして、多様な意味を持たせ、柔軟に使っていく。ただし、これは出発点であり、「韓国におけるボランティアとは何か」については本稿を通じて考え、その結果を提示していきたい。ボランティア活動をどのようなものとするかは、人それぞれに異なるように、ボランティア活動は異なる状況の下では異なる形態で行われ、ボランティアという言葉自体も状況に応じて異なる意味を持ちうる。韓国では1978年、韓国社会福祉協議会内にボランティア案内センターを設置するための準備委員会で、“volunteer activities”の韓国語訳として「自願奉仕活動( )」と表現することに決められた<sup>3</sup>。現在も韓国では一般的に「自願奉仕活動」という言葉が用いられてい

る。本稿ではそれらをすべてボランティア活動と表記することにする。

研究対象に中高生及び大学生ボランティアを取り挙げた理由は、韓国では1995年の「5.31教育改革<sup>4</sup>」により、中高生によるボランティア活動が政府の主導により積極的に推進されており、ここ数年で大きな発展を遂げたからである。また現在の大学生ボランティアは中高生の時、ボランティアの制度化によりボランティアを経験しているため、その後ボランティアに対する捉え方がどのように変化したか、明らかにしたいと考えたからである。

< - 1 図：各国のボランティア参加率 >



- (備考) 1. 日本は総務庁「社会生活基本調査報告書」(1996年)、アメリカはIndependent Sector "Giving and Volunteering in the United States" (1996年)、イギリスはThe National Centre for Volunteering "National Survey of Volunteering in the UK" (1997年)、フランスはThe Fondation de France "Giving and Volunteering in France 1997"、韓国は統計庁「社会統計調査報告書」(1999年)により作成。  
 2. 日本の数値は社会奉仕活動の行動者率である。各国のボランティア活動の定義は付注2参照。  
 3. 日本は1995年10月～1996年9月、アメリカは1995年、イギリスは1995年、フランスは1996年、韓国は1999年の数値。  
 4. アメリカ、イギリスの「15～24歳」は「18～24歳」。  
 5. フランスの「15～24歳」は「18～24歳」、「65～74歳」は65歳以上。  
 6. 韓国の年齢は、「15～19歳」、「20～29歳」、「30～39歳」、「40～49歳」、「50～59歳」、「60歳以上」。

出著：経済企画庁(2000)『国民生活白書』pp.19

また日本でも、現在進められている政府の教育改革プログラムにおいて、ボランティア活動が大きなウエイトを占めている。新学習指導要領においては総合的学習の時間が新設され、ボランティアは授業活動の大きな柱と考えられている。そのため、学校にボランティア活動を導入した韓国のボランティア活動の状況を研究することで、今後、日本で学校教育にボランティア活動を導入した際の多くのヒントが得られるであろうと考える。

## 2. 研究方法

研究の方法としては、政府機関・民間団体によるボランティア活動に関する統計資料及び研究調査や中高生・大学生ボランティアに関する先行論文をもとに、韓国におけるボラ

ンティア活動の特徴と傾向について分析した。その後、より詳細な情報を得るため、韓国で聞き取り調査を実施、加えてボランティア意識に関するアンケート調査も実施した。また、韓国のボランティア活動の特徴をより明確にするため、日本のボランティア活動に関する調査との比較等も行った。

聞き取り調査は次の通りに実施した。2001年2月末から1ヶ月間、韓国のソウル特別市及び仁川広域市に滞在し、現地で様々なボランティア団体、福祉施設等<sup>5</sup>に住み込み、実際にボランティア活動に参加し、韓国人ボランティアとも交流した。筆者自らが活動に参加し、ともに行動しながら韓国のボランティア活動について調査を進めた理由は、ハーバード大学の精神分析学者であるロバート・コールズ(1996)による「ボランティア研究を意味あるものにするには、研究者自身のその行為や活動への参加が課題であり、対象者と共通の体験をすることが必要だ」と筆者も考えるからである。以上のように、韓国のボランティア活動の概況について知識を得た後、韓国人のボランティア意識についてより詳細な資料を得るため、韓国ボランティアセンター協議会、KIVA、AMIS等へ依頼し、アンケート調査を実施した。この調査の分析に、筆者なりの考察を加え、韓国におけるボランティア活動の姿を明らかにしていく。

---

(注)

- <sup>1</sup> ボランティア国際年は、社会、経済、文化、人道、平和構築の分野における優先課題に取り組むために、ボランティア活動がかつてなく必要とされている、ボランティア活動をサービスとして提供するために、より多くの活動者が必要とされているという問題意識に基づいて、採択された。そしてボランティア国際年では次の4つの目的を掲げている。ボランティアに対する理解を深めること、ボランティア活動の環境の整備、ボランティアの情報交換に資するネットワークの構築、ボランティア活動の促進である。
- <sup>2</sup> 1997年に設立された非営利民間団体。ボランティア活動に関する研究・調査、ボランティアセミナー等の実施、ボランティア関連書籍の出版を行なっている。ボランティア国際年韓国推進委員会(IYV-Korea)事務局、国際ボランティア協会(IAVE)アジア地域事務局を兼ねている。2001年5月末から11月にかけて、各地域でボランティア活動を行ないながら全国を一周するイベント「ボランティア大行進」を中央日報社と共催で行った。
- <sup>3</sup> 「自願奉仕活動」という表記に関する問題も提起されている。「奉仕」という言葉は相手に何かを与えるという印象を与えるという批判である。しかし韓国社会で一般的に使用されているため、本稿ではこの語を用いる。また他に「社会奉仕活動」という語が用いられることもあるが、これは宗教団体等が行う活動を指すことが多い。
- <sup>4</sup> 韓国の文部科学省である教育部では、青少年の人間性と共同体意識を養うことなどを目的に「95.5.31教育改革」を発表、「青少年ボランティア活動の活性化方案」を提示した。
- <sup>5</sup> 訪問または滞在した団体・施設は次の通り。AMIS(施設ボランティア活動を定期的に行っているインターサークル) IFA(国際交流支援団) 恩平天使院(障害児施設) 韓国UNESCO、仁川児童福祉館(韓国子ども保護財団仁川支部) 韓国SOS子ども村、ボランティア21、ソウル市ボランティア情報案内センター(ソウル特別市社会福祉協議会内) KIVA(韓国国際ボランティア機構)。